

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 243

2015年

3～4月号

行 事 案 内

3月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 3月8日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 日に日に暖かさが感じられる季節です。冬鳥もそろそろ見納めとなってきます。いっぽう小鳥の囀りが聞こえるかもしれません。早春の薫りと共に、カモ類、猛禽類、小鳥達の生き生きした姿を楽しみましょう。

解 散 正午
担 当 小澤

4月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 4月12日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 冬鳥から夏鳥へ移行する季節であり、渡りの季節でもあります。手賀沼のほとりで、春を感じながら、コガモ等のカモ類、冬鳥の残り、早い夏鳥、渡りの鳥、多くの猛禽類に出会えることを期待しましょう。

解 散 正午
担 当 船津

3月、4月ビオトープ調査

期 日 3月5日(木) 雨天延期
4月2日(木) 雨天延期
集 合 手賀沼ビオトープ 午前9時30分
案 内 3-4月のビオトープは1-2月と同じく、一年中で多くの種類の野鳥が見られる時です。

昨年3月はカワセミ、コガモ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ホオジロ、キジ、トビ等19種、4月は3月に見られた鳥のほかにオオジュリン、ツバメ等26種の野鳥を観察しました。3月は木の芽、野草の芽が出始め、4月には桜、レンギョウ等の木の花が咲き、柳、ハルニレの若葉が出始め、タンポポ、スミレ、ヒメオドリコソウ、さらに春の七草等の野草の花が咲きます。また昆虫の蝶、蛙も動き始めます。初春の霏困気を感じながら、探鳥をしてみましょう。

参加希望の方は下記までご連絡下さい。

解 散 午前11時30分
担 当 鈴木静治

Tel : 080-3121-4757

霞ヶ浦周辺探鳥会

期 日 4月29日(水・昭和の日) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前8時
案 内 春の渡りの時期、霞ヶ浦周辺で真っ黒に変身した夏羽のツルシギを主体に、多くのシギチを探し楽しみたいと思います。事前の下見状況で最終コースを決めますが、概ね霞ヶ浦北岸から北浦辺りまでの探鳥を考えています。
春ならではの、鮮やかな夏羽に変わりつつあるシギチと一緒に楽しみましょう！

交 通 自家用車分乗です。同乗者は一人1,500円を運転者にお渡し下さい。申し込みの際、自家用車を提供可能な方はその旨連絡ください。

持 物 観察用具、雨具、昼食(途中購入可)
担 当 桑森、金子(雅)
申 込 金子雅幸まで
Tel : 04-7133-6944

筑波山探鳥会

期 日 5月2日(土) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前7時
案 内 当会恒例の探鳥会です。筑波山は昔から西の富士、東の筑波と称され、百名山・日本百景の一つです。山中には珍しい植物や美しい野鳥も多く自然の宝庫です。キビタキ、オオルリ、コルリ、センダイムシクイ、ソウシチョウ、ツツドリなどを求めて静かな裏側の山道から登ります。山頂付近からの眺望もぜひお楽しみ下さい。

交 通 自家用車分乗です。同乗者は一人1,500円を運転者にお渡し下さい。なお自家用車を提供可能な方は、申込時にその旨ご連絡下さい。

持 物 観察用具、念のため雨具、昼食(途中購入可)

担 当 小林(寿)、野口(隆)
申 込 野口隆也まで
Tel : 04-7163-7898

3月役員会案内

日 時 3月8日(日) 13:00~16:00
(開始時間に注意！)

場 所 水の館3階研修室
議 題 4月の定期総会について
・H27年度定期総会次第
・H26年度事業報告・決算報告(案)
・H27年度事業計画・予算(案)
役員改選について
会報244号掲載予定記事について
第12回「野鳥サロン」について
報告事項
・関係団体関連報告
その他(議題のある場合は野口隆也までご連絡ください。)

第11回「野鳥サロン」のご案内

第11回野鳥サロンを下記日程にて開催いたします。
テーマは、下記の3本立てで行います。
ハワイの鳥たち
鳥を題材にしたネイチャーゲーム
旅先で見た鳥
は、ハワイの野鳥事情とオアフ島で観察した鳥たちの紹介をします。
は、自然と親しむツールの中から、当会の観察会などの場でも活用できる、鳥を題材にしたネイチャーゲームを紹介し、皆さんに実際に楽しんで頂きます。
は、海外旅行に行ったときに見る、その国の身近な鳥についての紹介をします。
多くの皆様方の参加をお待ちしております。

日 時 3月28日(土) 10:00~11:45
場 所 我孫子北近隣センター 並木本館 第2・第3会議室

電話 04-7157-4517

(我孫子駅北口より徒歩7分)

会費 一人300円(茶菓代ほか)

担当 桑森、小林(寿)、北崎

締切日 3月22日(日)

申込み 北崎正典

Tel: 080-5186-2665

- 申込みは極力メールでお願いいたします。平日仕事中は携帯電話に出られない可能性があります!

平成27年度定期総会

日時 4月12日(日) 13:30~15:00

場所 我孫子市民プラザホール(旧EFL)

議題 平成26年度事業報告及び決算

平成27年度事業計画及び予算

役員改選

その他

26年度の事業結果及び決算を総括し、27年度の事業計画及び予算を決める大事な会員総会です。

会員皆様の多数のご出席をお待ちしております。

総会終了後、DVD「ニホンイヌワシ 森林の国に生きる」~文部科学省選定作品「日本の鳥をみませんか」シリーズ第3弾~を上映する予定です。(53分)

行事報告

12月手賀沼探鳥会

調査日時 2014.12.14 9:00~12:00

快晴 無風 気温10

総選挙と重なったために集合場所を変更したにもかかわらず、ほぼ定刻に集まりました。2名の方が初参加で直ちに入会してくださり、うれしいスタートとなりました。

定位置に居てくれたハヤブサ、2羽も飛んだミサゴを見て着いたヒドリ橋では、カイツブリ3種の比較ができました。この冬一番の冷え込みにもかかわらず、無風という好条件に恵まれ、寒さを感じることなく多くの鳥を観察できました。カムリカイツブリの数に驚き!

<認めた鳥> コブハクチョウ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、カイツブリ、カムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ノスリ、カワセミ、チョウゲンボウ、ハヤブ

サ、モズ、ミヤマガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン 計43種 番外カワラバト

<探鳥班> 大久保陸夫、武藤康之、石渡成紀、松本勝英、松本葉子、船津登、田中恒雄、西嶋昭生、間野吉幸、川村美智子、川村美恵子、藤川敏彦、佐々木隆、常盤孝義、榎本右、田丸喜昭、小玉文夫、金子幸子、小林博之、小澤淳宏、野口隆也、鈴木静治、小林寿美子、村瀬和則、千葉洋、石井俊子、野倉元雄、北崎正典、六角昭男、桑森亮、渡辺俊文、久永佳弘、鈴木紀臣、鈴木皓太、小川克子、大隅政孝、小坂忠久、太田早苗、荒井みどり、百瀬喬(担当) 松田幸保 計41名

<カウント班> 染谷迪夫、木村稔、田中功

調査日時 2014.12.14 9:10~12:52

晴 無風 7

| 調査種 | 上沼 | 下沼 | 合計 |
|---------|----|----|----|
| コブハクチョウ | 12 | 7 | 19 |

1月手賀沼探鳥会

調査日時 2015.1.11 9:00~12:15

晴れ 微風 11

新しい年を迎え、最初の定例探鳥会は、前日までの強い北西の風も収まり穏やかな天候に恵まれたスタートになりました。帽子を飛ばされたり、スコープも倒れそうになるほどだった下見がうそのようです。

北千葉導水センター前では、ノスリが遠望され、目前のアシの間にバンを見られ幸先良く、期待が大きく膨らみました。いつもの鉄塔でのハヤブサは外れましたが、他の常連さんたちは、カモ達は勿論、カワセミ、ミサゴはじめオオジュリンやベニマシコ、ビンズイ、ウミネコにまで会えました。

ヒドリ橋上空ではノスリがゆっくりと我々を歓迎するかのように帆翔して、さらに一回り小さい猛禽類がそのノスリにモビングをしかけたのがハイタカかどうかで一気に盛り上がりました。

道の駅脇の草はらではタヒバリが至近距離まで寄ってくれてサービス満点でした。

お立ち台(下沼)は、カモの群れは多くなく散見できる程度でしたが、ミコアイサやカンムリカイツブリの白さが輝き、冬の手賀沼を満喫できた探鳥会になりました。

<認めた鳥> キジ、コブハクチョウ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、スズガモ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ミミカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、オオバン、ユリカモメ、ウミネコ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、ノスリ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、タヒバリ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン 計48種 番外 カワラバト

<探鳥班> 西城猛、村瀬和則、野口隆也、相良直己、北崎正典、金子幸子、船津登、小澤淳宏、武藤康之、田丸喜昭、榎本右、石井俊子、田中恒雄、野倉元雄、類地佑子、間野吉幸、渡辺俊文、松本葉子、川村美智子、川村

| | | | |
|-----------|-----|-----|-----|
| オカヨシガモ | 17 | 0 | 17 |
| ヒドリガモ | 5 | 0 | 5 |
| マガモ | 0 | 26 | 26 |
| カルガモ | 34 | 4 | 38 |
| オナガガモ | 0 | 7 | 7 |
| コガモ | 425 | 28 | 453 |
| スズガモ | 0 | 9 | 9 |
| カイツブリ | 2 | 4 | 6 |
| カンムリカイツブリ | 23 | 21 | 44 |
| ハシロカイツブリ | 3 | 2 | 5 |
| カワウ | 16 | 63 | 79 |
| アオサギ | 14 | 9 | 23 |
| ダイサギ | 3 | 6 | 9 |
| コサギ | 3 | 12 | 15 |
| バン | 1 | 0 | 1 |
| オオバン | 11 | 32 | 43 |
| ユリカモメ | 110 | 9 | 119 |
| セグロカモメ | 1 | 0 | 1 |
| 合計 | 680 | 239 | 919 |

<ピオトープ班> 鈴木静治、間野吉幸、池田日出男

調査日時 2014.12.4 9:30~11:30

くもり後雨 無風 13

ピオトープは枯れた蔓性、抽水植物に覆われるが、その中にアオジ、ホオジロ、ウグイス等の地鳴き、クスノキ、メタセコイア、ラクウショウの木の茂みにヒヨドリ、ツグミの群れが見られた。生息ゾーンの植物移植工事進む。出来た池で追い掛けっこするオオバンがみられた。沼の沖に数百から千羽のカモの群れが休み、時々百羽程度の群れが上空を雁行し飛ぶ。斜面林は赤、黄の紅葉と緑の常緑樹の配色が綺麗。上空にハヤブサが飛ぶ。観察した野鳥24種237羽。他に木の花実8種、野草の花実4種も観察出来ました。

<認めた鳥> ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、キジバト、カワウ、コサギ、オオバン、ユリカモメ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ホオジロ、アオジ 計24種

美恵子、小玉文夫、桑森亮、野口紀子、六角昭男、石渡成紀、常盤孝義、久永佳弘、西嶋昭生、太田早苗、佐藤弘美、百瀬喬、鈴木静治、岩田孝之（担当）松本勝英 計 34 名
 <カウント班>木村稔、染谷迪夫、田中功
 調査日時 2014.1.12 9:20~11:55

晴 無風 5

| 調査種 | 上沼 | 下沼 | 合計 |
|-----------|-----|-----|-----|
| ゴブハチョウ | 4 | 14 | 18 |
| オカヨシガモ | 32 | 3 | 35 |
| マガモ | 0 | 42 | 42 |
| カルガモ | 53 | 10 | 63 |
| オカガモ | 0 | 1 | 1 |
| コガモ | 265 | 178 | 443 |
| ホシハジロ | 0 | 1 | 1 |
| キンクロハジロ | 0 | 1 | 1 |
| ミコアイサ | 1 | 8 | 9 |
| カイツブリ | 11 | 2 | 13 |
| カンムリカイツブリ | 14 | 5 | 19 |
| ハジロカイツブリ | 4 | 2 | 6 |
| カワウ | 9 | 37 | 46 |
| アオサギ | 27 | 5 | 32 |
| ダイサギ | 4 | 2 | 6 |
| コサギ | 0 | 21 | 21 |
| バン | 2 | 1 | 3 |
| オバン | 8 | 34 | 42 |
| ユリカモ | 10 | 0 | 10 |
| ウミネコ | 1 | 0 | 1 |
| セグロカモ | 1 | 0 | 1 |
| 合計 | 446 | 367 | 813 |

<ピオトープ班>鈴木静治、間野吉幸、蒲田知子

調査日時 2015.1.8 9:30~11:00

快晴 強風 6~8

快晴で強風のため遠くに白い富士山見える。沼は白波立ち水鳥はあまり見えず。上空を飛ぶカモの大群、トビの飛翔が見られた。ピオトープ生息ゾーン植物移植工事で出来た池でオオバン泳ぐ。田ではセキレイ科 3 種、ツグミ、ムクドリが餌探しする。観察した野鳥 20 種 104 羽。他に木の花実 4 種、野草の実 4 種、昆虫 1 種、小動物 1 種も観察出来ました。

<認めた鳥>カルガモ、コガモ、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、オオバン、セ

グロカモメ、トビ、モズ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン 計 20 種

涸沼探鳥会

12月23日

圧巻、カンムリカイツブリの群漁!

神部 充

12月23日当朝、空は青く晴れ渡り、風もなく穏やか。弥が上にも探鳥会への期待が高まる。今日は、一体、どんな鳥たちに出会うことが出来るだろうか?

涸沼には、数年前に一度探鳥に出かけたことがあるが、その時の印象では、鳥が遠くてスコープが必需であることを思い出した。そのため、普段愛用している一眼レフではなく、スコープとコンパクトデジカメを入念にチェックしてデジスコを持参することにした。

集合場所に着くと、既に数名の同志が集まっており、皆、笑顔…。やはりお天気恵まれて上機嫌の様だ。幹事によると、参加者は全部で 22 名、車 6 台で移動するとのこと。これは過去に私が参加したいずれの探鳥会よりも大規模で、涸沼人気の高さが伺える。

8時過ぎに出発し、途中、2回休憩をとって、2時間程で最初の探鳥ポイント『弁天鼻網掛公園』に到着。う~ん、やはり鳥たちは遙か彼方にいる。早速、スコープを覗いて鳥たちを観察する。スズガモ、カルガモ、キンクロハジロ、オオバン、マガモの中にヒドリガモとオカヨシガモを発見。遠くの対岸の前に一羽の雄のカワアイサも発見。白いものが視界に入ったが、これは雄のミコアイサだった。圧巻は、100羽近いカンムリカイツブリの群れ。これは手賀沼でも散見できるが、これ程の群れを観るのは初めてだった。どうやら群れをつくって魚の追い込み漁をやっているらしい。それから、ハジロカイツブリの群れと数羽のミミカイツブリ。遠くの杭の上ではミサゴがお食事中。無風状態でポカポカ陽気の中、ゆったりと観察できた。ベテランの会員によると、涸沼がこんなに穏やかなの

は珍しく、まるで水面が鏡の様だとのこと。あまりの暖かさにダウンジャケットを脱いだ程だった。

次に、『いこいの村涸沼』へ移動。スコープを使ってじっくり観察すると、遠くの対岸で休んでいる 5 羽のコサギと 2 羽のコブハクチョウを発見。湖畔にはダイサギ、アオサギの他、陸に上がったオオバンの群れやアカハラ、シロハラなどにも遭遇した。暖かい陽光の中、芝生のベンチで昼食をとっていると、至近距離にハクセキレイとセグロセキレイが寄って来た。穏やかでのどかなひと時だった。

昼食後には、今日のもう一つのお目当てである「シジミ」を購入しに、地元の直売所へ移動。前もって、店には幹事から発注しており、1 kg の袋詰めになった「シジミ」が用意してあった。皆、お目当ての「シジミ」をゲット出来て満足気な様子だった。涸沼の「シジミ」は大粒でボリュームがある。私もシジミ汁が大好きなので一袋購入した。

次に、ホオジロガモのポイントである『涸沼東部の堤防』へ移動。ここでは、例年、ホオジロガモが観察されているらしい。スコープを覗いて必死に探すも、スズガモばかりで、残念ながらホオジロガモにはお目に罹れなかった。これは来年の楽しみにしておくことにしよう。この頃になると、涸沼らしい風が吹き始め、水面が波立ってきたが、何とかスズガモの群れの中にいる 1 羽のヨシガモを発見できた。

涸沼を切り上げ、帰路、石岡市高浜に寄り『霞ヶ浦岸堤防』に向かった。ここでは、例年、ヨシガモが観察されているらしい。しかしながら、堤防が工事中だったため、撤退を余儀なくされた。ちょっと残念だったが、ここも来年の楽しみにしておくことにしよう。

帰路、常磐道矢田部東 PA で休憩して鳥合せをした。私が気付かなかったキジ、カワセミ、チョウゲンボウ、ウグイス、ゴイサギ、オオジュリンなどを含めて全 52 種を数えた。鳥合せ中、かわいらしいジョウビタキの雌が現れて、皆の注目を集めた。

探鳥会の参加者の数もさることながら、一日の探鳥で 52 種を計上するのもすごいと思う。残念ながら、今回はホオジロガモ、オ

オワシに出会うことは出来なかったが、来年もまた参加して、是非、涸沼で彼らに遭遇してみたい。

最後に、幹事の船津さん、車を運転してくださいました田丸さん、清水さん、渡邊さん、間野さん、松本さん、北原さん、ありがとうございました。

【追記】

我が家でのシジミの食仕方をご紹介します。23 日は一晩、水に浸して砂抜きをします。翌 24 日、鍋に水をはり 1 kg のシジミを投入して煮ていきます。我が家は 5 人家族なので、シジミを 1 kg 投入しても決して多過ぎることはなく、かえってシジミのうま味がたくさん出て美味しくなります。しばらくすると、アクが出るのでアクをすくい出し、ここに少量のだしの素を加えます。シジミを煮過ぎないように注意します。味をみながら味噌をとぎ入れます。味噌を入れた後は煮立てないように注意します。刻みネギなどの薬味を加えて召し上がれ。

涸沼探鳥会に参加させていただいたお蔭で、最高に美味しい『シジミ汁』を食べることが出来ました。ありがとうございました。

【幹事報告】

日本海側各地に豪雪を降らせた“爆弾低気圧”も去り、安定した気圧配置の元、今年の涸沼探鳥会は絶好の小春日和に恵まれました。

定刻の 8 時過ぎ、我孫子駅を出発、順調に北上し、最初のトイレ休憩地、常磐道美野里 PA には約 1 時間で到着し、直行されていた清水さん一家と合流、これで今回の参加者 22 名（6 台）が揃った。岩間 IC で高速道を出て、例年のルートでコンビニでの弁当購入後、一路涸沼に向かう。

第一観察ポイントの網掛公園に 10 時前に到着、すぐに探鳥を開始した。堤防下の田んぼでいつものタシギを探したが今年は空振りだったが、その向うの民家の大木にノスリが止まって居た。堤防に上がると輝く沼面に水鳥達が予想通り群れていた。あちこちで早くも「オカヨシ」、「スズガモ」などの声がある。カンムリカイツブリの大群が漁餌しているのが遠望できる。少し進むと群れから離

れた 1 羽のハジロカイツブリがゆっくりと出迎えてくれた。さらに進むと対岸近くに集団の鳥影が見える。マガモやコガモに混ざってヒドリガモも見た。杭の上ではミサゴが食事中でした。

次いで、第二ポイント「いこいの村沼沿」では、まずは昼食前の探鳥だ。震災の爪痕は殆ど修復されており堤防上は歩きやすい。穏やかな沼面には通常より若干少ない感じだったが、それでもやはり手賀沼とは桁違いの水鳥達を堪能できた。公園内の池は半分近く埋める工事が進んでいて盛んに建設重機、ダンプが行き来していた。その傍でオオバンが 50～60 羽平気な様子で日向ぼっこしている風景は年の瀬であることを一瞬忘れさせてくれました。生垣の脇ではアカハラが姿を見せ数台のスコップの的になっていた。昼食は暖かい日差しの中でゆっくりできたが、やや風が出てきたので次への移動支度を始めた。

第三ポイントのホオジロガモが期待できる沼東部へ向かう。堤防に上がると、そこは一段と水鳥達の数は多くなり被写体として全く不足は無い。主役はスズガモの大群でした。陸側は静かそのもの、遠くでトビが輪を描いていただけでした。お目当てのホオジロガモを懸命に探したが見当たらず、ヨシガモが混入しているのを認めただけでした。名物“沼沼の寒風”が強くなってきたので早々に最後のポイントへ移動した。勿論シジミ購入は忘れず、昨年よりも大粒でした。

15 時過ぎに高浜駅休憩經由で霞ヶ浦に着いたが、生憎と大規模な護岸工事中で堤防上へは上がれないよう規制されており、止むをえず今回はこのまま帰路に就くことにした。下見を省略した反省と参加者皆さんへのお詫びで気分が重い道中でした。

矢田部東 P A で鳥合せし、間野会長から年納めの挨拶を頂き散会した。

< 認めた鳥 > キジ、コブハクチョウ、オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、キンクロハジロ、スズガモ、ミコアイサ、カワアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ミミカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ノスリ、カワセミ、チョウゲンボウ、モズ、ハシ

ボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、シロハラ、アカハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン 計 52 種
< 参加者 > 田丸喜昭、田丸メリールイス、吉田隆行、小林秀美、清水直樹、清水優希、清水浩樹、渡邊浩次、相良直己、小澤淳宏、間野吉幸、神部充、玉井修一郎、上杉宣一、大久保陸夫、渡辺俊文、北原建郎、野倉元雄、中根忠、桑森亮（幹事）船津登、松本勝英 計 22 名

小見川・神之池・江戸崎探鳥会

1 月 4 日

一気に出現、タカ類 5 種に興奮！

渡邊浩次

— 昨年 JBF で入会して、昨年 1 月の小見川・神之池・江戸崎探鳥会に初めて参加しました。昨年末の沼沼探鳥会が 2 回目、そして今回がまだ 3 回目の参加で、あまり熱心ではない日の浅い会員です。普段は、庭木につるした蜜柑を可愛いメジロが美味しそうについばむ姿を見るのが、私のささやかな野鳥の楽しみ方です。

小見川に至る利根川堤防の道路は、ゴルフでよく行き来するので馴染みの深い所ですが、ここでは何と 5 種類ものタカ類（チュウヒ、ノスリ、ミサゴ、オオタカ、トビ）を一気に見ることが出来てかなり興奮しました。間野会長を始め、皆様が大きな望遠鏡で捉えたこれらの姿を次々と覗かせていただきました。それにしても、皆様が空遠くを飛んでいる姿を見ただけで、すぐさま種類を言い当てることにも驚くばかりでした。

神之池では気温 0 度、北風が強く冷たく吹き、凍えるようでした。ここでは数多くのカモ類を観て、野鳥図鑑と首っぴきで照らし合せながら、やはり皆様に種類を教えてくださいました。皆様は寒さの中をものともせず珍種を探し回られ、その熱心さには脱帽でした。

次の浮島は、霞ヶ浦の南端の広大な水郷風景の拡がりを楽しめて、同じ茨城県でも北方

の桜川市(旧岩瀬町)出身の者にとっては心浮き浮き、さすが水郷筑波国定公園に指定されてるだけの素晴らしさと感嘆しました。

最後の稲敷市稲波の小野川ベリ堤防では、やはり昨年を引き続いてオオヒシクイを数多く見ることが出来ました。今年は今まで最多の120羽が飛来しているそうですが、当日は70羽ほどが枯れた稲田にたわむれていました。

鳥合わせで驚くことがありました。昨年の手帳には55種類と記録されていたのですが、今年は54種類、後に1種類追加確認されて55種類。まったくの同数になったことです。27名の会員の皆様がカウントされて、昨年今年も、同数の種類を確認出来ていることが少なからず驚きでありました。同じ行程で同じ探鳥会に参加するのは、このような楽しみ方も出来るので良いのかも知れません。健康に留意して、また来年の年初にもこの探鳥会には参加させていただきたく思います。

【幹事報告】

～オオヒシクイは120羽超～

新年恒例となった探鳥会で、多くの皆さんが参加され、27名、車7台での挙行となりました。定刻通り8時からスタートし、途中休憩地の「しもふさ農産物直売所」で昼食のお弁当を調達。最初の探鳥地の小見川の利根川堤防ではタカ5種類を観察し、チュウヒが大サービスで間近の飛翔撮影で満足した後、次の神之池へ。今回もミコアイサの群れが観られましたが、少し遠くて撮影には今一でした。カモは10種と多く観察でき、なかでもヨシガモが近くとても綺麗でした。

神之池で昼食後、稲敷市本新の蓮田を巡って、浮島で休憩と葭原のタカを観察、そして今日一番のお目当て江戸崎に向かいました。

江戸崎の稲波干拓地は関東唯一の亜種オオヒシクイの越冬地で、これまで70～80羽の飛来数でしたが、今年は120羽超を数え、当日は70羽程が冬枯れ田圃で稲の二番穂を啄んでいました。残りの50羽は霞ヶ浦方面に出張中とのことでした。他にも、ジョウビタキの撮影ショーがあり、カワラヒワの群れが陽光の中で黄色に輝いていました。

最後はいつもの「水と緑のふれあい公園」でハシビロガモとカワセミを観て、鳥合せの後、帰路につきました。

曇り後晴れ、風もなく穏やかな天気恵まれ、今年一年を象徴するような心地よい日和で、今年も良い年でありますようにと願いつつ、探鳥会を終えました。

<認めた鳥>オオヒシクイ、オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、トモエガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、タゲリ、セイタカシギ、タシギ、タカブシギ、オジロトウネン、ハマシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、チュウヒ、オオタカ、ノスリ、カワセミ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、ベニマシコ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン
計55種 番外 シナガチョウ

<参加者>清水直樹、清水浩樹、渡邊浩次、浅野利幸、相良直己、大久保陸夫、間野吉幸、荒井みどり、吉田隆行、野倉元雄、渡辺俊文、松本勝英、百瀬喬、松田幸保、久永佳弘、井上正、中野久夫、中根忠、中根洋子、玉井修一郎、北崎正典、北崎大翔、仲澤成二、小林博之、猪爪敏夫(幹事)小玉文夫、桑森亮
計27名

房総の港巡り探鳥会

1月17日、18日

期待以上に海鳥たちを堪能

中西榮子

秋が深まる頃から、楽しみにしていたのが、「房総の港めぐり探鳥会」。我孫子野鳥を守る会では、初めての企画である。出発当日の朝は、気持ち良く晴れ、定刻よりわずかに遅れて集合場所のふれあい広場を出発。皆の気持ちはひとつ。出来るだけたくさんの海鳥に出会いたい。それも珍しい海鳥に。幹事の金子さんには、相当の重圧が掛かっていたのではないかと思うが、皆の期待を一手に引き受けて、まるでマジシャンのように、次から次

に海鳥を堪能させてくれた。

1月17日(土)、直売所しもうさに立ち寄った後、銚子港に向かった。何しろ風が強い。天気予報通りだ。カモメが飛び交う中、真っ赤な目のハジロカイツブリの群れが、潜水を繰り返しながら、過ぎ去って行く。続いて第三漁港では、テトラポットにとまるクロサギ2羽。スコープを覗いたり写真を撮ったり、大いに楽しんだ。さらに黒生漁港から外川漁港に回ると、ここでは、珍客のケイマフリが我々一行を機嫌よくお出迎え。何と、皆の見えやすい位置にグングン近づいて来てくれるのだから、この上なしの贅沢さである。続いて回った銚子マリーナでは、九州ではたくさん見られるというツクシガモが、水溜りでスイスイ泳いでいた。さらに飯岡漁港を經由し「かんぼの宿旭」周辺の海岸に向かう。ここでは、例年見られているシノリガモが、サーファーのように波乗りを楽しんでいた。以前、ユキホオジロが見られた片貝漁港では、砂を舞い上げる風が吹く中、突堤まで進むと、クロガモをはじめカモ類が湾の中にたくさん集まっていた。この後、宿に到着。夕食は、海の幸満載の贅沢さ。ちょっと量が多いのが難点。酒宴は盛上がり話はつきないが、大久保長老の一本締めで幕。幹事の部屋での二次会も大いに盛り上がったのは、言うまでもない。

1月18日(日)、この日も青空が広がり、明るい兆し。まず最初の目的地・一松海岸へ。皆の期待は、アラナミキンクロ。無理であろうと思いつつも、その出会いを期待する。幹事の金子さんが、スコープを覗き「いた！アラナミキンクロ！」と叫んだ。皆の期待が、何と現実に！何と素晴らしい出会いであろう。昨年の1月にも、この地で出会っているが、昨年以上の感激である。前日のケイマフリ、ツクシガモに続き、この日はアラナミキンクロまで見られ皆大満足。さらに大東漁港、鯛の浦、鴨川を回り「房総の港めぐり探鳥会」は、終わった。帰路、水仙ロードの水仙も、影絵のような夕景も余裕を持って車窓から眺めることが出来た。

幹事の金子さん、松田さん。道案内してくださった浅野さん。ご一緒させて頂いた皆様、大変お世話様になりました。心より感謝の意を込めて。

【幹事報告】

「冬の房総港巡り」と言う初企画で、何が見られるかも判らぬ中24名もの参加を得て実施した。カモメ飛び交う銚子港からスタートして、鴨川漁港まで主要な港・海岸を2日間で10数カ所、北風も強い中何度もバスの乗り降りを繰り返して海鳥を探した。そんな努力に幸運の女神は素敵に微笑んで呉れ、予想外のアラナミキンクロ、ケイマフリ、ツクシガモなどなど、全員が至近距離で確認出来ると言う最高のプレゼントを呉れた。お蔭で宿でもバスの中でも盛り上がりっぱなし状態で、幹事冥利に尽きる探鳥会であった。ビギナーズラックもあるだろうが、又企画しても良いかな...と思える港巡りであった。

<認めた鳥>ツクシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、シノリガモ、アラナミキンクロ、ピロードキンクロ、クロガモ、カイツブリ、アカエリカイツブリ、カンムリカイツブリ、ミミカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、ヒメウ、カワウ、ウミウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、クロサギ、オオバン、シロチドリ、イソシギ、ミユビシギ、ハマシギ、ユリカモメ、ウミネコ、カモメ、シロカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ケイマフリ、ミサゴ、トビ、チュウヒ、ノスリ、カワセミ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ツグミ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ビンズイ、タヒバリ、カワラヒワ、ホオジロ 計58種

<参加者>青木典子、浅野利幸、荒井みどり、池田日出男、大久保陸夫、金子幸子、神部充、木村稔、桑森亮、古出洋子、古賀嗣朗、小島昭江、小玉文夫、小玉信子、相良直己、中西榮子、中根忠、中野久夫、野口隆也、野口洋子、船津登、山本貞江、(幹事)松田幸保、金子雅幸 計24名

井頭公園探鳥会

2月1日

バードソン、負けても楽しかった！

田中靖子

前日の雪がうその様にすっきり晴れた朝、バスは定刻通り 8 時に我孫子駅北口を出発しました。車内では鳥の鳴き声当てクイズを楽しんだり、幹事役の染谷さんから今日の探鳥は、A・B グループ分かれて鳥の数を競うバードソン(但し賞品は無し)で行うことや、昨日の雪が林に残っていれば、小鳥の採餌する姿が見られるかも知れない等の説明を受けている内に公園に着きました。

鳥見亭の二階で常駐指導員の方から鳥情報を聞き、さあ探鳥に出発です。A グループは池を左回りに、私たち B グループは右回りにスタート。すぐ、私たちを出迎えるかのようにジョウビタキが現れました。頭から背にかけて、毛艶が見事です。これは幸先が良いと期待が高まります。

池にはオナガガモとヒドリガモが群れていて、その上をハクセキレイが元気よく飛び回っています。ずっと先で休んでいたマガモの頭は蛍光色のグリーンだったり、LED の様に光っていたり、紫色だったり、ピロードの様な光沢だったり、冬の陽に照らされて、一羽一羽がまるで違う鳥のように見えます。近くの方と「ワーツ、きれい」と思わず声を上げました。気の早い雄がディスプレイする姿も見られました。

林の中をゆっくり進みます。バスの中で教えていただいた通り、そこだけ雪が消えた落ち葉の上をツツツと動く鳥。木の根元でしきりに何かついばんでいる鳥。梢から梢へツツと移動して繁みにすっと入ってしまう鳥。動く物を見逃すまいとじっと目を凝らしていました。そうしているうちに、ヤマガラ、シジュウカラ、コゲラ、ピンズイ、シロハラたちに出会いました。歩みを止めた染谷さんが「ベニマシコがいますよ。あの鳴き声がそうです。」と言うと、葦からサッと飛び立ったのはベニマシコの雌でした。淡いパフ色の体と胸のこげ茶色のすじが良く見えました。

途中で A グループの方々と出会いました。「トラツグミをゆっくり見てきました。きつと未だいますよ。」と、気のせいかちょっと誇らしげな様子。私たちもぜひ見たいと、丁寧に見て歩きますが出会えません。「いやー鳥だっていそがしいんですよきつと。同じ所にそんなに長くはいませんよ。」だれか番し

ててくれないとね。」等と冗談を言い合って歩きました。同じ林の中を歩いて、出会えたり出会えなかったり……。そこが探鳥の楽しさでもあるように思いました。

10 時半から 2 時半まで、お昼もそこそこに鳥を追いかけて楽しい時間は過ぎました。

さて、バードソンの結果は A グループ 41 種、B グループ 36 種で、A グループの勝ちとなりました。B グループはミヤマホオジロ、アオゲラ、カケス、トラツグミ等と出会えなかった事が残念でした。

初めて参加させていただいた私には、本当に楽しい一日でした。

遠くにいたヨシガモは、フィールドスコopで見せていただき、尾を覆うように流れる羽の一本一本まで良く見えました。また林の中のどの辺りを注意して見たら良いかも教えていただきました。

夫の後について歩き、鳥が好きになってきた私ですが、これからはいろいろな鳥たちとの出会いが楽しみです。

担当幹事の方々、同行の会員の皆様、ありがとうございました。

【幹事報告】

前日の雪も解けて一部残雪となり、快晴、少し風もありましたが、探鳥日和でした。池には薄氷がみられ、林にはなごり雪、こんな光景はめったに無いので、出る鳥を期待しました。

井頭恒例の A 班、B 班に分かれてのバードソン(A 班の勝利)。延 43 種も出てくれて、参加者は楽しんでくれたようでした。

観察センター鳥見亭のレンジャーの話では数年前から年々飛来する水鳥の数が減っているとのこと。震災後の復旧工事も概ね終了しており、往年の賑わいが待たれる。それでも比較的数の少ないトラツグミやミヤマホオジロを A 班だけでも見られたことはよかったと思う。

< 認めた鳥 > ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、ミコアイサ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、トビ、カワセミ、コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、トラツグミ、シロハラ、ツ

グミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ピンズイ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、ミヤマホオジロ、アオジ 計 43 種 番外 カワラバト
＜参加者＞ 船津登、小山雄二、小山和子、神部充、中野久夫、津村勝吉、大久保陸夫、相良直己、蒲田知子、鈴木静治、野口隆也、渡邊公子、桑森亮、金子幸子、中根忠、松本勝英、小玉文夫、松下勝子、田中恒雄、田中靖子、六角昭男、類地佑子、松田幸保、小澤淳宏、仲根文世（幹事）小林寿美子、染谷迪夫 27 名

（現地集合）阿保進、阿保国子、田丸喜昭、田丸メリールイス 4 名 計 31 名

芋煮会と岡発戸・都部谷津探鳥会

ドキハラの 32 回目も、無事開催！

連続して 31 回も雨天中止の無い芋煮会。いつか中止もあるだろうが、担当としては何としても続けたい...が本音。ところが今年は、天気予報から土日の雨マークが消えない。より盛大に楽しもうと皆さんに声を掛け、参加して頂く方々が 70 名を超えらると言うのに。願う事はただ、日曜日に雨が降らない事のみ。

そして、当日 12 月 21 日、奇跡は起こった。前日はかなりの雨にも拘わらず、朝から快晴無風そして暖かいと最高の天気を迎えられ、探鳥会は 35 名の参加でスタート。おまけに鳥達までが大サービスで、谷津の入り口からカワラヒワの大群、シメ、カケス、キジ、カシラダカなどなど次々飛び出してくれ、皆レンズから目が離せず足が進まない。本来探鳥会で先を促す事など無いのだが、キャンプ場では多くの奉行がみんなの為に準備を進めて呉れているとあれば、待たせる訳には行かない。やむなく「鳥が確認出来たら、進んで下さーい」と声を掛ける事もしばしば。そして確認出来た鳥は 29 種と、短時間では満足の鳥数。

若干遅れて、間野総奉行の発声で芋煮会もスタート。芋煮奉行が、鉄板奉行が、焼き鳥奉行が調理・準備して呉れた料理が良い匂いを立てている。全員で乾杯の後、夫々が右へ左へと移動しながら美味しい料理を堪能し、

会話の輪があちこちに開いた。焼き芋は新聞とアルミで丁寧に包まれ、料理の後のかまどで焼かれたそれは、初めて全員が食べる事の出来た最高に美味しい焼き芋だった。

今年も多くの方から差し入れられた酒やピーナッツ・お新香なども大勢の胃袋に全て納まり、恒例の残り品競売もほとんどジュース類だけの状態でささやかに終え、大久保長老の締めと集合写真で散会となった。

今年も多くの方々に参加頂き、有難うございました。又、夫々に準備奔走して頂いた奉行の皆様には、本当に感謝の言葉もありません。有難うございました。

来年も、もっともっと多くが集い芋煮会を楽しみましょう！！

＜参加者＞ 神部充、神部ほなみ、中野瞳、小玉文夫、小玉信子、橋本清、荒井みどり、相良直己、相良純子、大隅政孝、池田日出男、渡邊公子、鈴木裕爾、鈴木幸子、阿保進、阿保国子、渡辺俊文、渡辺千津代、金子雅幸、金子智恵子、木村稔、古高利男、小林博之、百瀬喬、村松寿夫、西嶋昭生、青木典子、吉田由美子、原靖男、原礼子、小澤淳宏、小林秀美、石井俊子、小坂忠久、柴本法子、染谷迪夫、大久保陸夫、藤川敏彦、浅野利幸、仲澤成二、中西榮子、杉森文夫、蒲田知子、蒲田久義、塩田恵、塩田凜、川越久枝、岩田マキエ、中根忠、北崎正典、北崎大翔、北崎ちとせ、野口紀子、野口紀恵、村瀬和則、間野吉幸、野口隆也、田中功、田中恒夫、船津登、松田幸保、佐々木隆、石渡成紀、金子幸子、小林寿美子、古出洋子、桑森亮、松本勝英、松本葉子、六角昭夫、類地佑子、鈴木静治 計 72 名

＜認めた鳥＞ キジ、キジバト、コサギ、カワセミ、コゲラ、アカゲラ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ、ウソ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ 計 29 種

第 10 回「野鳥サロン」

日 時 1 月 22 日(木) 10 時～11 時 45 分

場 所 我孫子北近隣センター 並木本館
第2-3会議室
テーマ 鳥の渡り、動物、虫、魚、水棲生物
の渡り
内 容 鳥の渡りの起源、地球上の3大渡
りのルート、渡りの測定法(足環、発
信機・衛星等)、渡りの方法(何時、飛
行テクニック、高度、タイミング、遺
伝、中継地)を担当幹事が説明し、そ
れらにまつわる話を参加者で話し合
いました。田中功さんから、足環の標
識調査(環境省より山階鳥類研究所に
委託)より渡りのルートの他に鳥の寿
命がわかる話、ヒマラヤ越えをするア
ネハヅル、インドガンには、鳥の気嚢
が役立ちまた血液中のヘモグロビ
ンの酸素搬送能力が発達しているとの
話、さらに昨年2月に八郎潟での絶
滅危惧種でなかなか見ることの出来
ないシジュウカラガン、ハクガンを
観察した話がありました。鳥の他に動物
ではコウモリ、サイガ、ヌー、ザトウ
クジラ、虫では蝶のアサギマダラ、オ
オカバマダラ等、トンボのアキアカネ、
ウスバキトンボ、さらにウンカ、ア
ブラムシ、クモ、魚では鮎、クロマグロ、
鰻、さらにアカウミガメの渡りの話を
担当幹事が説明しました。

<参加者> 間野吉幸、野口紀子、船津登、池
田日出男、小澤淳宏、金子雅幸、野口隆也、
畠中暁美、木村稔、田中功、田中恒雄、松
田幸保、阿保進、石渡成紀 (担当幹事)小
玉文夫、佐々木隆、鈴木静治 計17名

長寿大学探鳥指導

今年もベテラン会員にお手伝いを頂き、平
均年齢71歳の長寿大学生43名の探鳥指導
を12月25日に行った。昨年からの反省から冬
鳥の揃うこの時期に実施した事が幸いし、前
年より10種も多い鳥が観察され、参加の学
生も満足された様子。又、間野会長作成の写
真入りチェックリストが、見た鳥を改めて確
認出来ると好評で、少しは鳥に興味を持って
頂けたのかなと感じた。我孫子の住人だが谷
津田は初めてとの方も多く、改めてその素晴

らしさを認識して貰えた探鳥会であった。
<認めた鳥>キジバト、カワウ、ダイサギ、
コサギ、オオタカ、ノスリ、カワセミ、アカ
ゲラ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハ
シブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウ
グイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハ
ラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセ
キレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、カシ
ラダカ、アオジ 計28種

<参加会員> 木村稔、小玉文夫、染谷迪夫、
松田幸保、松本勝英、松下勝子、金子幸子
(担当) 金子雅幸 計8名

(金子(雅):記)

市民手賀沼船上探鳥会

1月25日、我孫子市環境レンジャーとの
共催事業として行われました。

通常は手賀沼の遊歩道沿いに探鳥するの
だが、今回は船上から探鳥を実施した。
陸から見ると、視点が低く、迫力があっ
た。移動中の遊覧船から見るので、動的な
探鳥であった。船の移動につれて、水鳥の群
れが飛び立つときや、着水する様子が壮観だ
った。当会の田中さん、桑森さんが鳥の説明
を担当し、簡潔で分かりやすかった。好天に
恵まれ、参加者は楽しそうだった。
認めた鳥は以下の通り。

水鳥：コブハクチョウ、オカヨシガモ、ヒド
リガモ、マガモ、カルガモ、オナガガ
モ、コガモ、ホシハジロ、ミコアイサ、
カンムリカイツブリ、ハジロカイツ
ブリ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、
ダイサギ、オオバン、ユリカモメ、セ
グロカモメ

陸鳥：キジバト、ミサゴ、オオタカ、トビ、
カワセミ、ハシボソガラス、ハシブ
トガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メ
ジロ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハ
クセキレイ、セグロセキレイ、オオジ
ュリン、カワラバト

<参加者> 一般 13名
環境レンジャー(間野吉幸、松本勝英、染
谷迪夫、中條耕造、牧野房江)
我孫子野鳥を守る会(桑森亮、田中功)
計20名

(染谷:記)

亀成川を愛する会探鳥会探鳥指導

2月1日亀成川を愛する会主催の亀成川流域の里山散策シリーズ「第10回冬鳥を探そう(9:30-12:00)」に本会から間野会長、野口副会長、木村さん、相良さん、船津さん、鈴木(静)の6名が探鳥指導に参加しました。主催会11名、一般46名の総勢63名で探鳥を楽しみました。

今回の探鳥コースは亀成川源流の印西市牧之原調整池から牧之原公園を通り宗甫、滝地区の亀成川岸の農道を歩きました。調整池ではホシハジロ、キンクロハジロ等の群れの中にいるヨシガモ、オカヨシガモを見つけて喜び、公園の芝地を歩くツグミ、生垣の落ち葉をかき回すアカハラ、フェンスにとまるジョウビタキを観察し、河原では葦の茂みで鳴くアオジ、ホオジロ、さらにセイタカアワダチソウ、柳のある湿地でベニマシコの鳴く声も聞こえました。丘の大木の梢を移動するエナガ、シジュウカラ、コゲラ等の混群を見、田ではセグロセキレイの飛び回る様子を、上空では強風の中を滑空するトビ、チョウゲンボウ、ノスリ、さらにこれらタカをモビングするカラスも見ることが出来ました。観察した鳥32種。(鈴木:記)

1月役員会報告

日時 1月11日(日)13:00~16:00
場所 水の館 3階研修室
議事

1. 会員アンケート調査の結果

昨年9月に実施した会員アンケート調査の分析結果が事務局から報告され、寄せられた多数のご意見等を今後の当会の運営に活かしていく旨の報告もされました。

アンケートは正会員を対象に実施し、回答数は84人、回収率は56.8%でした。

2. 平成26年度の反省と27年度に向けて 平成26年度の諸活動の反省並びに会員アンケート結果を踏まえ、事務局から提案した27年度事業活動の重点ポイントにつ

いて検討し、次の通り決定しました。

なお、この内容は27年度事業計画案として4月に開催される定期総会に提案されることとなります。

- (1)年会費の取扱いについて、来年度は会費据え置き、コストダウン努力と外部助成金活用を検討します。
- (2)ホームページ、メーリングリストの利用講習会を実施します。
- (3)事業活動におけるPR手段、発信方法を工夫し、諸行事への参加者拡大に努めます。
- (4)野鳥サロンについて、9月から一般会員を含めた運営とします。
- (5)探鳥カウントの運転費用及び探鳥会下見代について、次の通り決定しました。

探鳥カウント運転費用は、会の予算より運転者に1日につき300円を支払います。

日帰り探鳥会下見代は、下見を実施した際には、参加者1人当たり200円を担当幹事に支払います。なお、公共交通機関を利用する探鳥会の場合も同様とします。

宿泊探鳥会の下見代は、交通費実費、入場料等の諸費、宿泊代(通常料金で追加飲食費は除く)の半額相当を参加費予算に含め参加者が負担します。

上記内容は本年4月より実施します。

3. ほーほーどり243号掲載予定記事
掲載予定記事資料に基づき検討し、執筆担当等を決定しました。
4. 第3四半期会計報告
会計担当が資料に基づき報告し、異議なく了承されました。
5. デジタル野鳥図鑑の検討状況
担当幹事がデジタル野鳥図鑑の検討状況を報告するとともに、今後の方向性(基本的考え方とスケジュール)について提案し、大綱了承されました。この内容については、27年度の事業計画に取り込み、定期総会に提案されます。
6. 第11回「野鳥サロン」について
担当幹事が次の通り検討中で、詳細は決定次第周知されます。
・実施日は3/28(土)を第一案に会場確保の申込みを行い、会場が確保できない時は、

実施日を翌日又は翌週に延期します。

< 本件は、抽選の結果、行事案内のように決定しました。 >

7. 報告事項

(1) JBF、美手連、ACOBA、あびこ市民活動ステーション関係

説明は割愛され、関連する報告資料が配布されました。

なお、間野会長から「あびこ市民活動ステーション利用者懇談会」の公益活動団体利用者代表として委員就任の要請を受け、受諾した旨の報告がありました。

(2) あびこ市民活動ステーションの印刷機有料化についての説明会が12/19に行われ、概要と対応は次の通りです。

・H27/4/1から有料化がスタートし、製版代30円/枚、印刷代5円/25枚毎となります。このため、会報印刷費等については見込費用を予算化します。

・各種印刷代のコスト削減のため、会報

のメール配信について編集委員会を中心に検討します。また、役員会資料については、4月よりEメール利用者にはメール配信とし、各自が印刷して持参することにします。

(3) 26年度 会の活動記録DVD作成計画担当幹事から作成計画が提案され、異議なく了承されました。

(4) 「水の館」が県から市に委譲されることに伴い、3F研修室と2F会議室が利用できなくなる可能性があります。市としての施設受け入れ時期や運営方法はまだ決定していないので、至近の4/12定期総会の会場を確保すべく、「アビスタ」の他、代替として北および南近隣センターの利用申込みを事務局及び幹事有志が行うこととしました。

以上

寄稿

大津川野鳥歳時記(3) ~春、そして、初夏 ~

相良直己

1) 菜の花に覆われる大津川河畔

冬の間、賑わっていた大津川も冬鳥の旅立ち後、静かな季節を迎えます。3月中にはヒドリガモがシベリアに旅立ちます。そしてあれほど、沢山いたアオジも3月末には見かけなくなり、4月に入るとツグミの数も減り、オオバン、コガモも僅かの居残り組のみとなります。大津川は一気に静かな季節を迎えます。

4月中旬になると中流域の大津川の河原は一面“黄色いじゅうたん”、菜の花畑に変わります。菜の花の上をモンシロチョウ、キチョウがヒラヒラ舞っています。河原が最も彩られ、大津川の流れも、冬の間ゴミが目立った河原が、一気に美しい景色に変わります。

やがて、菜の花畑の傍らでウグイスが囀りの稽古を始めます。春先は枯れたヨシ原の中で地鳴きをしていたウグイスは、ヨシ原を離れ、中流域の決まった茂みで毎年囀ります。

2) 舞台は川面から河畔の田圃へ

オオバンやコガモの姿も殆ど見えなくなった4月中旬、周辺の田圃では代かきが始まります。田圃に水が入り始める頃、カルガモ達も川面から田圃へ棲み家を変え、番いで暮らすようになります。この頃、大津川周辺の田圃での主役はコチドリです。水が入り始めた田圃でコチドリ達のダンスが始まり、夕暮れになっても、採餌にいとまありません。河畔の田圃の、空高くヒバリも舞い始めます。そして、畔に降りたヒバリの隣には、イソシギの姿を見かけることもあります。

4月20日過ぎから5月の連休までの期間は、大津川河畔での探鳥のハイライトの季節を迎

えます。

水が入り始めたばかりの中流域の数か所の田圃に毎年決まってムナグロの群れが飛来します。その数約 20～30 羽。数か所の決まった田圃を順番に巡って、採餌と休息を繰り返します。黒い顔、胸、足そして黄金をまぶしたような背中、成鳥の夏羽の容姿は独特で、魅力的、ひとめ惚れです。この時期のムナグロには夏羽、冬羽、移行期の間羽、そして幼鳥、さまざま羽色の鳥たちが混ざって飛来します。冬羽の幼鳥は、そのつぶらな瞳が愛おしい程に可愛らしく、夕暮れまで何時間見ても見飽きない時が過ぎていきます。

そんなムナグロも旅鳥です。大津川周辺の田圃にはこの 2 週間のみしか滞在しません。越冬地のオーストラリアから毎回決まった時期に決まった場所に飛来し、シベリアの繁殖地へ去っていきます。

大津川周辺では、春のみ飛来し、秋の渡りで観ることはありません。秋の渡りは恐らく別ルートなのでしょう。

ムナグロを見かける田圃の周辺では、コチドリとタシギを見ることもあります。大津川流域では、コチドリ、ムナグロ、イソシギ、タシギは見られますが、それ以外のシギチを見ることはあまりありません。昨年は、珍しく大津川河畔の田圃にチュウシャクシギが一羽飛んできました。数年に 1 回の出来事ですので、その日はカメラを手に夢中で、チュウシャクシギの後を追いました。

これまでに、一度イカルチドリとダイゼンを 1 羽のみ見たことがあります。タゲリの飛来もなく、他のシギ達を見かけることもありません。

比較的何処でも見られるイソシギを別として、なぜ、コチドリとムナグロのみは毎回見ることができ、他のシギチは見ることができないのか、何か理由があるのでしょうか。疑問に思っています。

3) 田植えの頃の大津川流域

大津川の流域で田植えが始まる頃、耕運機の周りにはサギ達が集まってきます。一年中見られるダイサギ、コサギに加え、急激に増えるのがチュウサギです。耕運機や田植え機の周りで、追い立てられたムシ達目指してチュウサギ達が飛び回ります。そして探鳥のお目当てはアマサギです。大津川周辺の田圃でも 1 シーズンに 5～6 回は魅力的な亜麻色の被写体に夢中になることができます。

そして田植えの頃、ダイサギやコサギにも変化が現れます。ダイサギは冬羽から夏羽に変わり始め、嘴は黄色から黒色に変わり、目の周りには青い婚姻色が現れ、ダイサギが最も美しくなる季節です。

コサギも負けてはいません。冬羽から夏羽に変わると頭に冠羽、胸に飾り羽を着飾り、貴公子然とした姿となり魅せてくれます。そして眼先にはピンク色の婚姻色が現れます。

アオサギも夏羽となり青色がますます濃くなり鮮やかになっていきます。嘴は婚姻色のピンク色と変わり、房状の冠羽に威厳を感じます。

まさに、サギ達が最も輝く季節です。アマサギとチュウサギは一足先に旅立ちますが、ダイサギ、コサギ、アオサギは稲が育ち、田圃が黄金色に成る頃まで、カエル、ドジョウ、イナゴなどの豊富な餌に支えられ、大津川流域で育っていきます。

被写体になってくれた僅か 10 数分の間に、ダイサギはドジョウを 3 匹、そしてカエルを 1 匹丸呑みしました。そして、まだ、食事をしています。ダイサギもアオサギも大食家です。一体、一日にどれだけ食べるのでしょうか。

サギと言えば、ゴイサギも年に 1～2 度、大津川、または、周辺の田圃で見かけます。数

年前の春、退院後の自宅療養時に早朝散歩していた頃、明けたばかりの朝の田圃の畔で番いが休んでいました。日が昇るとともに手賀沼方向へ飛び去って行きました。また、今年の夏の夕暮れには、大津川川面の杭の上で見かけました。大津川でゴイサギを見るのは、早朝か夕暮れ時に限られます。なかなか撮影に適した明るさの時に見ることはできないのが、大津川では残念です。大津川では、これまで、ヨシゴイ、ササゴイを見かけたことはありません。ヨシ原がさほど広くなく、堤防の遊歩道が近過ぎることが原因なのでしょう。

4) 大津川が最も賑やかになる時

大津川が最も賑やかになるのは初夏から盛夏にかけてです。川面には鳥の姿はなく、周辺の田圃にもスズメとサギ類以外は見当たらず、探鳥には最も寂しい季節となりますが、ヨシ原のみは賑やかに成ります。その主役は、“ギョギョシー、ギョギョシー”ご存じオオヨシキリの登場です。

大津川の河原は背丈以上にヨシが伸び、中流域では、土手の遊歩道も胸まで伸びた草を掻き分け、掻き分け歩くこととなります。このため、犬の散歩も釣り人も中流域では見かけなくなります。整備されている下流は別として、中流域では土手の遊歩道からは川面は見えませんが・ ・

そんな大津川の河原で、オオヨシキリが、ヨシの枝先に停まり、赤い大きな口を開けて、大きな声で、縄張りを主張し、メスを誘います。賑々しく夏の主役の登場です。

晩春から夏にかけてのもう一人の主役がツバメです。川面や周辺の田圃の上を沢山のツバメが飛び交います。そして、周辺の決まった畑に舞い降り、休憩です。そして飛び立ちます。夜は大津川の河原のヨシ原で眠りを取ります。南の国を目指して旅立ちを迎える前に大津川のヨシ原から塹を移動します。

5) ツバメが巣立つ街であり続けるには

昨年日本野鳥の会ではツバメ・キャンペーンをやっていました。我が家の近所の民家でも、ツバメの巣は見られますが、昨年は2度も巣作りをしながら繁殖は上手くいきませんでした。

最初はカラスにやられたようです。2度目の巣は、1度目の巣を補修して利用していましたが、あまり丈夫ではなかったようで、風雨で地面に落ちてしまいました。

大津川や、周辺の田圃では毎年多くのツバメが飛び交い、何年も変わらぬ風景と思えるのですが、ツバメの世界にも異変が起きつつあるのでしょうか？昨年も、我が家の近くの電線にも多くの巣立ち仔ツバメが並んでいました。でも、ご近所産ではないようです。数年前までは、ご近所の民家の軒先から毎年巣立っていったのですが・ ・ ・。ツバメにも住みにくい街になりつつあるのでしょうか？

カラスも野鳥です。最近では、ゴミ収集所がカラスに荒らされないよう、町内会では様々な工夫をしています。カラスに荒らされて生ゴミが路上に散乱することは減りました。それでも、賢いカラスはたくましく生き抜いているようです。近年も、カラスはますます増え、一向に減る気配は見えません。

軒先の可愛いヒナに甲斐甲斐しく餌を運ぶツバメの親達の健気な姿を何時までも見ることができるそんな街であって欲しいと心から思います。

次回は、秋の実りの季節の大津川に関しお送りします。

鳥 だ よ り

- 11.21 [北新田] クサヅ(2) 2号排水路で
中野久夫
上空で杓(リ)グし餌を探していた
飯泉仁・飯泉久美子
- 11.22 [北新田] チョウゲンボウ(1) 電柱から飛
去
中野久夫
12.07 [千間橋] ハブサ(1) 14:00、耕起して
いる田んぼに隣接する鉄塔に止まってい
た
飯泉仁・飯泉久美子
- 11.22 [北新田] ハブサ(1) 電柱上で採食
中野久夫
12.07 [中峠] ノリ(1) 天地替えした田んぼ
の畔に飛び降りて何やら獲物をゲット、
丸呑みでなく千切って食べる様子がしば
らく続いた。私を無視。 松本勝英
- 11.23 [酒井根 6 丁目下田の森] ハブサ(1)
10:11、木に追尾され南方向から北方向
に渡去
飯泉仁
12.08 [片山(手賀の丘公園)] オカ(1) 上
空を飛ぶ
船津登
- 11.27 [片山] チョウゲンボウ(1) 電線に止まる
船津登
12.08 [片山(手賀の丘公園)] アカ(1) 木
に止まる
船津登
- 11.27 [片山(手賀の丘公園)] オカ(1) 枯木
に止まる
船津登
12.08 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガ(2)
地上で採食
船津登
- 11.27 [片山(手賀の丘公園)] アカ(1) 枯
木に止まる
船津登
12.08 [片山(手賀の丘公園)] ミヤマオ(4)
地上で採食
船津登
- 11.27 [鷺野谷新田] ノリ(2) 電柱に止まる
船津登
12.10 [手賀沼公園地先(若松)] クワ(1)
手賀沼公園の岸辺から水面すれすれ
に飛んで、沼の中央に戻る。偵察行動か。
上空から魚を見つけて飛び込み。その魚を
啜って得意そうに飛翔。しかし魚は大き
すぎたようで沼に落としてしまった。魚を
とり戻そうとダイビングを繰り返していた
が、とうとう逃げられてしまった。 中根忠
- 11.30 [水道橋] トビ(1) 上空を飛ぶ
鈴木静治
12.13 [北新田] チョウゲンボウ(1) 電柱上
中野久夫
- 12.02 [片山(手賀の丘公園)] アカ(1) 木
に止まる
船津登
12.13 [北新田] ハブサ(1) 電柱上
中野久夫
- 12.02 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガ(5)
船津登
12.14 [高野山新田] ヤマガ(1) 枯枝にとま
る
鈴木静治
- 12.02 [片山(手賀の丘公園)] クワ(1) 地
上で採食
船津登
12.14 [手賀沼] ミコ(1) 下沼 1
染谷迪夫・木村稔・田中功
- 12.03 [北新田] ノリ(1) 電柱上
中野久夫
12.14 [手賀沼辺] ノリ(1) 上沼 1
染谷迪夫・木村稔・田中功
- 12.03 [布佐平和台] ヤマガ(2) 電線にとま
り、木の実を食べる
鈴木静治
12.14 [手賀沼辺] ハブサ(1) 上沼 1
染谷迪夫・木村稔・田中功
- 12.04 [北新田] チョウゲンボウ(1) 電線上
中野久夫
12.15 [片山] ハブサ(1) 13:15、小鳥を追
し出現
飯泉仁・飯泉久美子
- 12.04 [中沼田] トビ(2) 上空を飛ぶ
鈴木静治
12.15 [片山] ノリ(1) 13:36、上空を鳴き
ながら旋回
飯泉仁・飯泉久美子
- 12.04 [岡発戸新田] ハブサ(1) 上空高く飛
ぶ
鈴木静治・間野吉幸・池田日出夫
12.15 [片山(手賀の丘公園)] トビ(1) 上空
を飛ぶ
船津登
- 12.05 [北新田] チョウゲンボウ(1) 電線上
中野久夫
12.15 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガ(3) NR
船津登
- 12.07 [片山新田] ミコ(1) 14:00、水面の
杭に止まっていた
飯泉仁・飯泉久美子
- 12.07 [酒井根 6 丁目下田の森] オカ(1)
9:31、木に追尾され、南方向から出現し
北側の林の中に入る
飯泉仁
- 12.07 [酒井根 6 丁目下田の森] アカ(1)
9:46、木をト(ミン)グ
飯泉仁
- 12.07 [千間橋] チョウゲンボウ(1) 13:19、水田

- 12.15 [片山(手賀の丘公園)] ミヤマホヅ(2) 地上で採食 船津登
- 12.15 [片山新田先手賀沼] ヒ(1) 11:33、上空を旋回 飯泉仁・飯泉久美子
- 12.15 [酒井根 6 丁目 下田の森] アガ(1) 9:43、木の幹をトラング 飯泉仁
- 12.15 [箕輪新田先手賀沼] ヒ(1) 11:11、上空を旋回 飯泉仁・飯泉久美子
- 12.17 [我孫子市内の田圃] シュウカガ(1) 田圃、採餌中(初認) 橋本了次
- 12.18 [江蔵地] ヘニマシ(3) 木の茂みで鳴く、飛び立つ 鈴木静治
- 12.18 [我孫子市内の田圃] シュウカガ(1) 田圃、採餌中 橋本了次
- 12.19 [岡発戸新田] コケヨウ(13) 沼の中で群れ、鳴き合う 鈴木静治
- 12.19 [北新田] ハフサ(1) 電柱上 中野久夫
- 12.19 [手賀沼(フィッシングセンター沖)] コケヨウ(14) 10:30、手賀川方面から一列の隊を組んで飛来、センター沖に着水。1羽はグレイの若い個体。 木村 稔
- 12.19 [我孫子市内の田圃] シュウカガ(1) 田圃、採餌中 橋本了次
- 12.20 [下沼田] ノリ(1) 電柱より田の上を滑空する 鈴木静治
- 12.21 [都部新田] ノリ(1) 木にとまる 鈴木静治
- 12.23 [柏の葉公園] アトリ(11) 10:25、桜の木の枝に飛来し、時折地面で採餌 飯泉仁
- 12.24 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガ(2) 船津登
- 12.24 [片山(手賀の丘公園)] クジ(5) 地上で採食 船津登
- 12.24 [北新田] ヒ(1) 飛翔 中野久夫
- 12.24 [北新田] チョウケ(1) 飛翔 中野久夫
- 12.27 [水道橋] ヒ(1) 川の上空を飛ぶ 鈴木静治
- 12.27 [千間橋] チョウケ(1) 田の杭にとまる 鈴木静治
- 12.27 [発作] チョウケ(1) 田の上を飛び電柱にとまる 鈴木静治
- 12.28 [北新田] チョウケ(1) 電柱上 中野久夫
- 12.28 [酒井根 6 丁目下田の森] アガ(1) 9:51、林縁を鳴きながら移動 飯泉仁
- 12.30 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガ(2)
- 1.02 [江蔵地] ノリ(1) 羽ばたきと旋回を繰り返し飛ぶ 鈴木静治
- 1.02 [下沼田] ノリ(2) 電柱にとまる 鈴木静治
- 1.02 [下沼田] チョウケ(1) 田の上を飛ぶ 鈴木静治
- 1.02 [布瀬新田] ヒ(1) 川の上空を飛ぶ 鈴木静治
- 1.03 [酒井根 6 丁目下田の森] オカ(1) 9:34、南方向から出現しカスに追尾され北側の林の中に退避 飯泉仁
- 1.03 [酒井根 6 丁目下田の森] アガ(1) 10:00、林縁を鳴きながら移動 飯泉仁
- 1.03 [発作] ホジ(2) 川中を潜水しながら泳ぐ(初認) 鈴木静治
- 1.04 [大井新田先手賀沼] ミカ(1) 14:25、水面の杭で休んでいた 飯泉仁・飯泉久美子
- 1.04 [片山新田先手賀沼] ヒ(1) 12:27、上空を旋回 飯泉仁・飯泉久美子
- 1.04 [酒井根 6 丁目下田の森] アガ(1) 9:54、鳴きながら移動 飯泉仁
- 1.04 [浅間前] チョウケ(1) 田の上を飛ぶ 鈴木静治
- 1.04 [発作] ヒ(1) 川の上空を飛ぶ 鈴木静治
- 1.04 [発作] ホジ(2) 川中を泳ぐ 鈴木静治
- 1.06 [片山(手賀の丘公園)] オカ(1) 枯木から飛ぶ 船津登
- 1.06 [片山(手賀の丘公園)] クジ(2) 地上で採食 船津登
- 1.06 [片山(手賀の丘公園)] ミヤマホヅ(5) 桜の木の下で採食 船津登
- 1.07 [江蔵地] ハフサ(1) 田の上を低空で飛びカサバトの群れに突っ込む 鈴木静治
- 1.07 [江蔵地] ノリ(1) 河原上を風に乗る 鈴木静治
- 1.07 [江蔵地] ヒ(1) 河原上空を飛ぶ 鈴木静治
- 1.08 [上沼田] ノリ(1) 田の上空を飛ぶ 鈴木静治
- 1.08 [都部新田] ヒ(1) 上空高く飛ぶ 鈴木静治
- 1.08 [岡発戸新田] ヒ(2) 上空を長時間風に乗る 鈴木静治・船津登

・間野吉幸・池田日出夫・蒲田知子

- 1.09 [手賀新田] コミヅク(1) 河原の草原上を飛ぶ(初認) 鈴木静治
- 1.09 [手賀新田] トビ(1) 夕暮れの田の上を飛ぶ 鈴木静治
- 1.09 [発作] 林ジウカモ(2) 川中を潜水しながら泳ぐ 鈴木静治
- 1.09 [発作] ノスリ(1) 強風の川の上空を飛ぶ 鈴木静治
- 1.09 [布佐] アカゲラ(1) 竹藪の中の枯れ木にとまりトラング 鈴木静治
- 1.11 [手賀沼] ミサゴ(2) 上沼 1, 下沼 1 染谷迪夫・木村稔・田中功
- 1.11 [手賀沼辺] ノスリ(1) 上沼 1 染谷迪夫・木村稔・田中功
- 1.12 [片山(手賀の丘公園)] トビ(1) 上空を飛ぶ 船津登
- 1.12 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ(2) 船津登
- 1.12 [片山(手賀の丘公園)] カジ(2) 地上で採食 船津登
- 1.12 [片山(手賀の丘公園)] アトリ(2) 地上で採食 船津登
- 1.12 [酒井根 6 丁目下田の森] ハイタカ(1) 10:47、村カに追尾され林の中に逃げ込む 飯泉仁
- 1.12 [発作] ノスリ(1) 川の上空を飛ぶ 鈴木静治
- 1.12 [発作] トビ(1) 川の上空を飛ぶ 鈴木静治
- 1.12 [発作] 林ジウカモ(2) 川中を潜水しながら泳ぐ 鈴木静治
- 1.12 [発作] ハヤブサ(1) 河原上を低空飛行 鈴木静治
- 1.12 [別所] ノスリ(1) 上空でカスにヒンクされる 鈴木静治
- 1.12 [別所] オトリ(5) 池の木の陰より泳ぎ出る 鈴木静治
- 1.13 [江蔵地] ヘコマシコ(3) 葦原で群れて鳴く 鈴木静治
- 1.13 [浅間前] ノスリ(1) 電柱にとまる 鈴木静治
- 1.13 [布佐] ヘコマシコ(1) 木の茂みで鳴く 鈴木静治
- 1.14 [北新田] ノスリ(1) 電柱上 中野久夫
- 1.16 [片山(手賀の丘公園)] アカゲラ(2) 栗の木から飛び立つ 船津登

- 1.16 [千間橋] ヨウケノウ(1) 河原の大木の頂きにとまる 鈴木静治
- 1.16 [浅間前] ノスリ(1) 電柱、田の杭にとまる 鈴木静治
- 1.16 [発作] 林ジウカモ(1) 川中を潜水しながら泳ぐ 鈴木静治
- 1.19 [片山(手賀の丘公園)] ヨウケノウ(1) 上空を飛ぶ 船津登
- 1.19 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ(2) 船津登
- 1.19 [片山(手賀の丘公園)] ミヤマホオジロ(4) 桜の木の下で採食 船津登
- 1.19 [浅間前] ヨウケノウ(1) 飛んで来て電柱にとまる 鈴木静治
- 1.19 [発作] トビ(1) 川の上空を飛ぶ 鈴木静治
- 1.19 [発作] 林ジウカモ(2) 潜水し餌獲り 鈴木静治
- 1.19 [鷺野谷新田] ノスリ(1) 電柱に止まる 船津登

今回寄せられた鳥の全種名

アオサギ、アオゲラ、アオジ、アカゲラ、アカハラ、アトリ、イソシギ、ウグイス、ウソ、ウミネコ、エナガ、オオジュリン、オオタカ、オオバン、オカヨシガモ、オシドリ、オナガ、オナガガモ、カイツブリ、カケス、カシラダカ、カルガモ、カワウ、カワセミ、カワラヒワ、カンムリカイツブリ、キジ、キジバト、キンクロハジロ、クイナ、クサシギ、クロジ、クハラアジサシ、ゴイサギ、コガモ、コゲラ、コサギ、コハクチョウ、コブハクチョウ、コミミズク、シジュウカラ、シジュウカラガン、シメ、ジョウビタキ、シロハラ、スズガモ、スズメ、セグロカモメ、セグロセキレイ、ダイサギ、タゲリ、タシギ、タヒバリ、チョウゲンボウ、ツグミ、トビ、ノスリ、ハイタカ、ハクセキレイ、ハシビロガモ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ハジロカイツブリ、ハヤブサ、バン、ヒドリガモ、ヒバリ、ヒヨドリ、ビンズイ、ベニマシコ、ホオジロ、ホオジロガモ、ホシハジロ、マガモ、ミコアイサ、ミサゴ、ミヤマガラス、ミヤマホオジロ、ムクドリ、メジロ、モズ、ヤマガラ、ユリカモメ、ヨシガモ、ルリビタキ 計 85 種
<番外種> アイガモ、カワラバト、バリケン

今回の投稿者の総投稿件数

| | | | |
|-----------------|-----|------|--------|
| 飯泉仁 | 366 | 田中功 | 5 |
| 飯泉仁・飯泉久美子 | 156 | 中根忠 | 8 |
| 木村 稔 | 1 | 中野久夫 | 22 |
| 鈴木静治 | 222 | 橋本了次 | 4 |
| 鈴木静治・間野吉幸・池田日出夫 | 24 | 船津登 | 167 |
| 鈴木静治・船津登・間野吉幸 | | 松本勝英 | 4 |
| ・池田日出夫・蒲田知子 | 20 | 百瀬喬 | 1 |
| 染谷迪夫・木村稔・田中功 | 62 | 総計 | 1062 |
| | | | (浅井 久) |

会からのお知らせ

<お詫びとお願い>

前号 242 号の「鳥だより」は、前年のものを掲載してしまいました。

本号には、別紙として正しい 242 号の「鳥だより」を同封いたしましたので、お手数ですが、差し替えなど修正方、お願い致します。改めましてお詫び申し上げます。

<新入会員紹介>

大隅政孝（市川市在住） 太田早苗（取手市在住） 久永佳弘（我孫子市在住）

<年会費納入のお願い>

平成 27 年度の会費納入の時期が来ました。郵便局の振込用紙を同封しましたので、3 月末までに払い込みをお願いします。なお、例会（3/8，4/12）総会（4/12）などで会計に直接お支払頂く場合は振込用紙を破棄してください。

年会費 2,000 円（大学・高校生 1,000 円、中学生以下 500 円、家族会員無料）

<会員だよりの割愛>

前号に続いて本号も投稿数が少なかったため「会員だより」は割愛しました。

ほーほーどり No. 243 （2015 年 3～4 月号）

発行 2015 年 3 月 1 日

発行人 間野吉幸

編集人 猪爪敏夫、古出洋子、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 〒270 1154 我孫子市白山 3 - 8 - 16 - 104 間野方

連絡先 〒277 0005 柏市柏 1001 - 5 野口隆也 Tel 04 - 7163 - 7898

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140 - 2 - 647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費 2,000 円（大学生・高校生 1,000 円、中学生以下 500 円、家族会員 無料）